

# 小高商工会青年部・女性部 ふれあい懇談会 (第7回)

開催日 平成 27 年 2 月 25 日(水)  
12 時 00 分から

開催地 ロイヤルホテル丸屋

参加者 23名

---

## 【質疑】

質問 1 : 小高の相馬野馬追は、これからどうなるのか。

回答 1 : 小高から出陣できるよう常日頃呼びかけていましたが、馬の調達や風評被害もあり、叶いませんでした。27年度の相馬野馬追については、準備宿泊が可能になれば、自宅から出陣できるようになります。この前の執行委員会の決定では、宵乗は神社で出陣式は実施するものの、馬に乗って小高神社からの出陣は実現できない状況ですので、早く執行できるよう努めて参ります。

質問 2 : 一番危惧しているのは、担い手の問題だ。今は、賠償関連の資本があるから何とかやっている状態だが、今後の方向性として、我々の同世代や次の世代を育てられるバックアップ体制、経営者を育てるような環境を形に見えるようにしてほしい。

回答 2 : 今年度から未来創造塾として、南相馬市で頑張ろうとする人たちを育てる試みをしています。農業基盤整備はしていますが、担い手がない声が圧倒的です。農家の長男が農業をしなければならぬ時代ではありません。農業をやりたい人、興味がある人を従事させる仕組みを作るため、チャレンジ塾的なことを始めたいと思っています。

先ほどの質問に対しては、不安や悩みを共有して、どういうバックアップができるのかということです。ひとつの試みとして、今回、南相馬鹿島サービスエリアができます。株式会社野馬追の里に担っていただきますが、小高商工会も当然入っています。このような発信の窓口を多く作っていく必要があります。

行政として、採算の問題ではなく、厳しい環境の中で努力する人たちをバックアップできる仕組みを作るため、今やるべきことはやるといったスタイルでいかなければなりません。国の行政のバックアップが必要であれば、市が窓口になり、国に仕組みを作ってくださいと申し上げて参ります。

質問3： 小高小学校や金房小学校等、いつ地元に戻れるのか。

回答3： 戻るとするならば、28年4月には戻れます。戻った時に、例えば各小学校再開の問題があります。市として統合は考えていませんが、父兄との話し合いの中で、1箇所で勉強できる環境を作ってほしいと言われていきますので、そういう方向性にしたいと思っています。また、除染や整備が進み、学校も全て修繕した時に、すぐ戻れるかという不安があります。教育委員会では、いつのタイミングをもって学校を再開するか父兄と話し合っている最中です。

高校の場合は、28年度拡大、29年度統合となっています。福島県の教育委員会のハードルが高いわけではありませんが、学校の修繕が追い付かないこともあることから、29年にしてほしいと言われています。

質問4： 小高区が解除になっても、医療や福祉関係が心配で戻らない人も増えているが、順序よく整備されるのか。

回答4： 医療は、週3日体制にしていますが、これでよいのかと言われています。

4月からは、5日間の診療体制ができるように、ひとつひとつ不安を解消して、安心感につなげて参ります。旧警戒区域である20キロ圏内の皆様が帰還する人や再生しようとする事に対しては、行政としてやるべきことは実施して参ります。

質問5： 住みやすい小高区をつくるのはいいが、何の採算性もなく、まちが破綻する可能性も20年後30年後でてくると思うがどうか。

回答5： まちの整備と暮らしの問題は表裏一体の部分があります。菊池製作所がトヨコムの場所を買収して、今年、小高工業に30人の募集を出しました。しかし、実際は6人しか応募がない実態です。小高区で暮らす時に、議会から企業誘致しなくてどうするのかと言われます。全くその通りですが、企業誘致した時に働く人がいない問題をどうするのか。市として、働く人、特に若い世代が戻れる仕組みを考えると、住む場所を保障し、生活できる仕組みをひとつひとつ整備するしかありません。すぐに22年度の状態まで戻せないの、ひとつひとつ課題を解決して参ります。